アルバータ州

日系人の歴史

戦前から現代まで

カーリー　オカムラ　2023年3月25日　講演プレゼンテーション英語
日本語訳　大木早苗

戦前のカナダへの移民(1877–1928)

日本からのカナダへの最初の移民として知られている永野万蔵は1877年にブリティッシュ・コロンビア州に到着しました。1907年までは、ほとんどすべての移民が若い男性でした。1908年、カナダが日本人男性のカナダへの移住を年間400人に制限した結果、その後の移民のほとんどは、夫と一緒にカナダに移住する女性か、写真結婚でカナダ来る女性でした。一世はたいてい若く、識字率が高かったようです。一世の多くは日本南部の漁村や農家の出身で、バンクーバーやビクトリアの日本町や郊外、フレーザーバレーの農場、太平洋沿岸の漁村やパルプ工場、鉱山の町などに定住しました。

1928年　バンクーバー　パウエル街

Canadian Encyclopedia

アルバータ州初期の入植者

1,000人以上の日本人が、鉄道の労働契約や、炭鉱、甜菜(Sugar beets,サトウダイコン)畑での労働のためにアルバータ州に入植しました。レスブリッジの北にあるハーディービルという町には、炭鉱で働く日本人のグループが住み着きました。また、ロッキー・マウンテン・ハウスやオパール地区で農業を始めた人たちもいました。

メディスンハットでレストランを始めた人、洋服の繕いもするクリーニング屋を始めた人もいました。エドモントンのマクドナルド・ホテル、カルガリーのパリザー・ホテル、バンフ・スプリングス・ホテルなど、多くの高級ホテルでも日本人のベルボーイが雇われました。1931年のアルバータ州の日本人人口は652人でした。

レイモンドへの日本人入植は1903年に始まり、1931年までに400人以上の日本人が移住し、そのほとんどが甜菜畑で働いていました。皆仏教を信仰し、子供たちに日本の伝統文化や武道を教えるための施設も作られました。

1930年、ハーディービルの人々

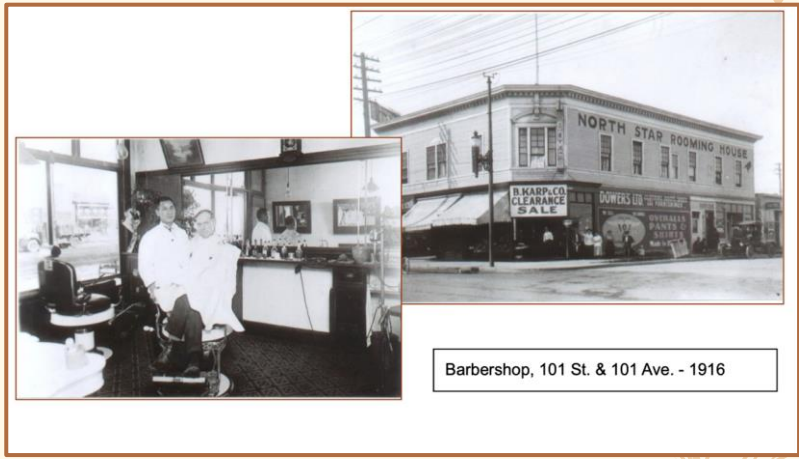
Nikkei Cultural Society
Heritage Community Foundation

エドモントン初期の入植者

エドモントンで正式に記録されている最初の日本人は、1912年に「サムの理髪店」を経営していたという中村杉蔵です。1910年頃、エドモントン近郊には季節労働者を含めて130人以上の日系人が住んでいました。市内には日系人が経営するレストランが7軒、理髪店が1軒、ビリヤード・センターが2軒ありました。1913年以前、エドモントンには和田トヨハルとその弟、そして2、3人の日系人が住んでいました。和田はエドモントン市から35マイルほど離れたところで農業を営んで成功していましたが、火事で家を失い農業をあきらめました。

エドモントン地区で農場を所有していた日系人は、エドモントンから東に60マイルほど離れたライリーに160エーカーの農場を持っていた中原だけでした。後、中原は2万ドルで農場を売り米国に移りました。

1921年頃、山田トシキチがエドソンでレストランを経営し、町には4、5人の日系人がいて、町の周りの炭鉱でも数人が働いていました。その日系人たちは白人の住民と親しくし、差別を受けたことがなかったといわれています。時給は5ドルから6ドルで、他の人よりずっと高かったようです。



1916年、サムの理髪店

Edmonton Japanese Community Association History Project

初期の差別的な法律

1874年からBC州の政治家は、すべてのアジア人をカナダから追い出すことを目的とした一連の法律を成立させました。この法律では、アジア系の地下採鉱者、公務員、弁護士などは州の投票人名簿に記載される必要がありました。労働法と最低賃金法は、雇用主がアジア系カナダ人を単純労働や農作業にのみ雇用し、白人労働者よりも低い賃金で雇うことを強要していました。

1907年には、アジア人排斥同盟の扇動者たちによって煽られた9000人の暴徒が、バンクーバーのチャイナタウンとジャパンタウンの窓ガラスを割り、家や店を破壊した事件がありました。この時代の人種差別は「黄禍」と呼ばれ、アジア系移民の軍隊がブリティッ・シュコロンビア州を自国のために占領することを恐れていたのです。

1907年、暴徒により壊された商店

1920年代から1930年代にかけて、経済的な問題から日系人は職場で不当に狙われるようになりました。連邦漁業局は、日系人の漁師に発行する免許の数を3分の1に減らし、州政府はアジア人へ伐採許可を与えず、アジア人は白人労働者の受け取る社会扶助の数分の一しか貰えませんでした。このような慣行があったため、主に二世でビジネスを始める人たちは、東部カナダの都市に出稼ぎに行くようになりました。

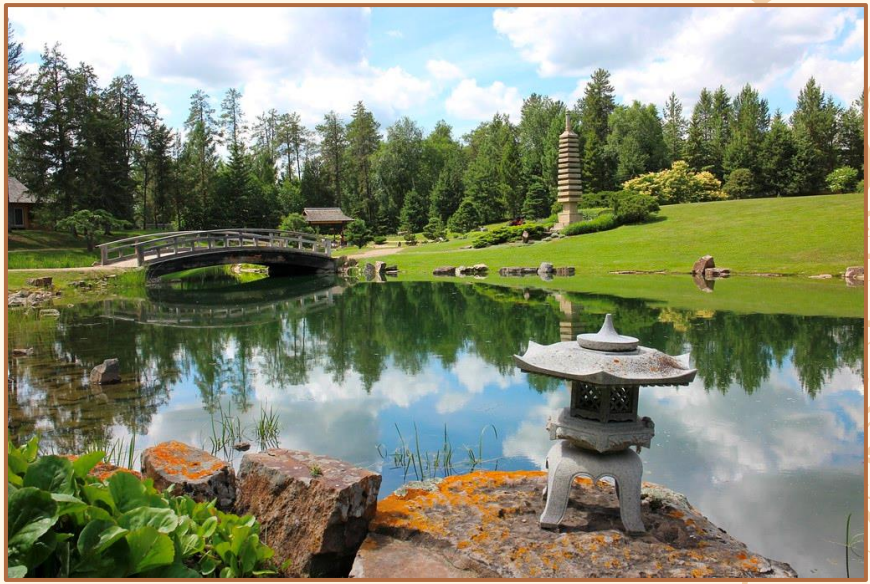
The Canadian Encyclopedia

アルバータ州における差別

戦前のアルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州では反日運動はありませんでした。これらの州政府は勤勉な日本人農業移民の定住を奨励していました。

ブリティッシュ・コロンビア州を除くすべての州で日系人は英国臣民と同じ権利を享受していました。アルバータ州、サスカチュワン州、ユーコン準州にはカナダ国籍を持つ多くの日本人がいて選挙権を持っていました。エドモントンでは、1913年4月17日の総選挙で飯山卓三と45人の日系人が投票し、飯山氏は自由党に所属し、他の人々も自由党に傾倒していました。

Edmonton Japanese Community Association History Project



栗本日本庭園

選挙権

BC州はすべてのアジア人の選挙権を否定していました。日本人は1895年に州選挙に参加することを禁止されました。それでBC州が州内に住む日系人から州の選挙権を取り上げた時、日系人は連邦レベルでの投票権も失ったのです。その3年後の1898年、連邦政府はこの障壁を解決するための法律を制定し、連邦政府の選挙管理官に連絡して、連邦有権者リストに自分の名前を追加すれば連邦選挙に投票できるようになったのです。理論的にはこの新しい規定は、BC州に住む日系人の連邦選挙権を回復するのに役立つものである筈でしたが、実際にはこの措置は広く知られず、利用されることもありませんでした。また、この規定は他のカナダ国民には課せられれいない特別な努力を日系人に要求するものであったため、多くの日系人がこの偏見に満ちた扱いに苦闘し、他の市民と同様に民主的プロセスに参加する権利を主張しました。1900年、本間留吉はBC州の有権者名簿に載るために法的な訴訟を起こしましたが、結局、裁判所はBC州が州の投票権を決めることができるという判決を下しました。

1920年、連邦選挙法が再び変更され、州の投票リストが例外なく連邦選挙で使用されることになりました。ほとんどの日系人はBC州に住み続けたので、これは連邦の投票権を奪われることを意味しました。1936年、日系カナダ人市民連盟の代表団は下院で選挙権を要請するためにオタワに向かいました。代表団は全員カナダ生まれの専門的職業人で、特別委員会の前で訴えました。代表団の訴えに同情的な議員もいましたが、反対する議員が大部分で、特にBC州出身の議員が猛反対した結局、投票権を求める代表団の要請は却下されました。

日系人のBC州外への強制移転は、BC州での投票制限の対象から外れることを意味し、厳密には連邦の投票権を得ることになったのですが、連邦政府は1944年の連邦選挙の前に議会はこの抜け穴を塞ぎ、BC州から追放された日系人は現在どこに住んでいようと投票できないようにしました。やっと1948年に日系人は居住する州に関係なく無条件で連邦選挙権を獲得したのです。アルバータ州では日系人は投票制限を受けることはありませんでした。

Elections Canada

第一次世界大戦

第一次世界大戦中、BC州ではごく一部の例外を除いてアジア人の兵役を認めませんでした。これを回避するために200人以上の一世がBC州からアルバータ州まで入隊のために移動しました。入隊した222人のうち、54人が戦死しました。ヴィミー・リッジの戦いでの活躍が評価された三井マスミ軍曹をはじめ、13人の日系人が勇敢な兵士として勲章を授与されました。

三井軍曹と他の日系退役軍人は、BC州政府に対し彼らの軍務に敬意を表し選挙権を与えるよう運動しましたが、初期には失敗に終わりました。1925年、彼らはカナダ在郷軍人会BC第九支部を結成し、BC州内の他の在郷軍人会支部との連携を図りながらさらに努力を重ねました。

三井は支部長に就任し、退役軍人たちは1931年に包括的な選挙権獲得運動を組織し、三井が代表団を率いてビクトリアへ行き、BC州議会議員に働きかけました。その結果、州議会は1票差で日系退役軍人にB.C.州の選挙権を付与することを決定しました。これにより、これらの退役軍人はアジア系カナダ人として初めて、BC州で選挙権を獲得しました。しかし、この権利は退役軍人だけに与えら、家族および子孫には与えられませんでした。

The Canadian Encyclopedia

三井マスミ と宍道マサジロウ 1916年

岡村マゴイチとミツ

私の曽祖父母は、1917年にサリー地域に定住した最初の日系ファミリーの一家族でストロベリー・ヒルと呼ばれる地域に住んでいました。10エーカーの土地で農産物を栽培し、鶏を飼育していました。16,000平方フィートの鶏舎と飼料庫があり、4000～6000羽の鶏を飼っていました。6人の子供がいました。

1942年4月27日、家族はバンクーバーのヘースティングス・パークの仮収容所に移された最初の日系家族の一つで、その後マニトバ州の甜菜農場で働くことになりました。

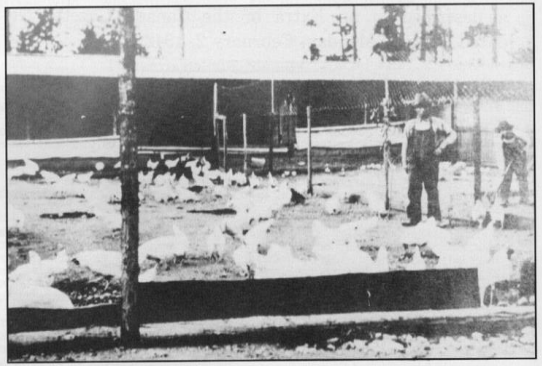
OKAMURA, Magoichi and Mitsu

Magoichi Okamura was born in Agenosho Tachibana Cho Oshima-gun, Yamaguchi-ken, Japan, and came to Canada in 1907. He was engaged mostly in logging in Canada. In 1916, he purchased two five acre lots on the corner of 116 Street and 92nd Avenue (road allowance reduced the actual acreages) and settled there in 1919.

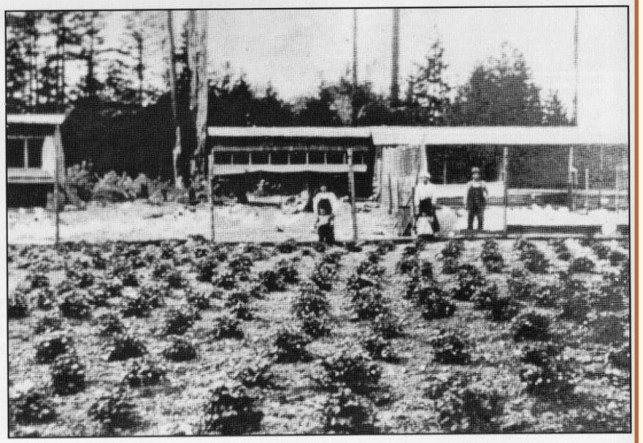
The legal description of the property was : Lot 24 & 25, N.E. 1/4 section 36, Township 4, Map 1186, Municipality of Delta, Certificate #52693.

He married Mitsu Kanazawa, who came to Canada from Nishinohama, Migama Oshima-cho, Oshima-gun, Yamaguchi-ken, Japan, in 1919. They grew strawberries on one and a half acres and had one acre each in black currants and gooseberries. Most of the property was fully developed. They also had a complete self-supporting poultry operation consisting of breeding hens and roosters, hatcheries, pullets, laying hens, colony houses and 16,000 square feet of chicken houses and feed houses. The total poultry flock, depending on time of year, was 4000-6000 birds. The operation had a hatching capacity for 5200 eggs every 21 days, with automatic electric incubators for 2500 eggs, coal oil manual incubators for 2700 eggs and electric battery brooders for the chicks.

Their children: Masayoshi Okamura, Kimiye Ohno, Yoshiyuki Okamura, Chiyeko Tomimoto (died in 1989), Yukio Okamura and Tatsuo Okamura.



Chicken yard at Okamura farm with Magoichi Okamura and Shoichi Yamamoto in June, 1923



Okamura farm viewed from 92nd Avenue, North Delta: Shoichi Yamamoto, Masayoshi Okamura, Mitsue Okamura with her daughter Kimiye Okamura, and Magoichi Okamura in June, 1923

"Note size of first growth Douglas fir trees compared to second growth at left, which were 150' to 200' tall."

Information provided by: Mas Okamura

強制収容と財産財産処分 (1942-1945)

1941年の真珠湾攻撃から12週間後、カナダ連邦政府は戦争措置法を用いて、太平洋岸から160km以内に居住するすべての日系人の排除を命じました。当時、政府は「国家安全保障」を理由に日系人を排除すると主張したが、この排除命令にはカナダの軍やRCMPの幹部が反対し、日系人はカナダの安全保障に何の脅威も与えないと述べていました。

20,881人の日本人の血を引く男性、女性、子供たち（その75%はカナダ国民）が、自宅、農場、会社から連れ去られました。8,000人以上がバンクーバーのヘイスティングス・パークにある仮収容所へ移動させられ、女性と子どもは家畜棟に収容されました。収容された人々は、ホープ近郊とクーテネイ・バレーの収容所、アルバータ州南部とマニトバ州の甜菜農場、BC州のホープ・プリンストン高速道路とイエローヘッド高速道路沿いとオンタリオ州のシュライバーの道路労働キャンプに送られました。移動に抵抗した人々は、オンタリオ州のペタワワとアングラーにある捕虜収容所に送られました。

1943年から1946年にかけて、連邦政府は日系人の財産（家、農場、漁船、会社、所持品）をすべて売却し、その代金から収容所に収容され失業している間に所有者が受けた社会扶助を差し引いたのです。

アルバータ州に住んでいた日系の家族は土地を離れる必要はありませんでしたが、BC州から新しく到着した日系人と同じ制限を受け、郵便や電話は検閲され、身分証明書の携帯を強制されました。

The Canadian Encyclopedia
Heritage Community Foundation

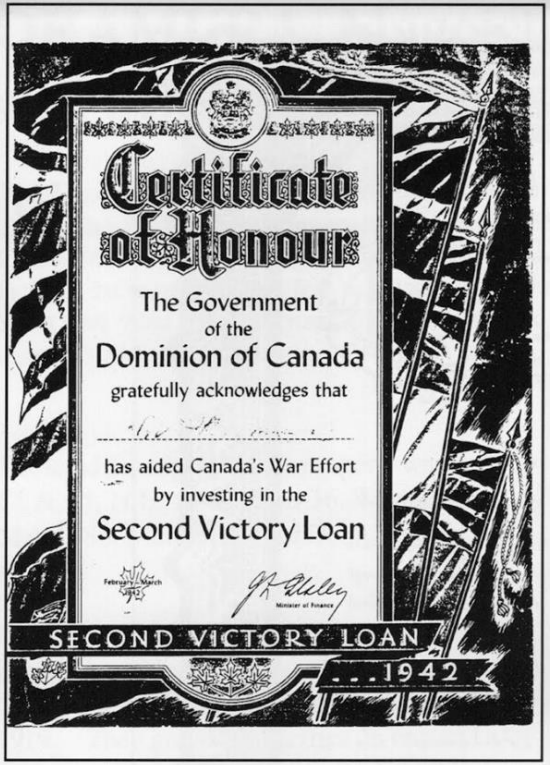
1942年、BC州での避難勧告

1941年、船を没収される漁師たち

1942年、女性や子供にあてがわれた以前の家畜棟

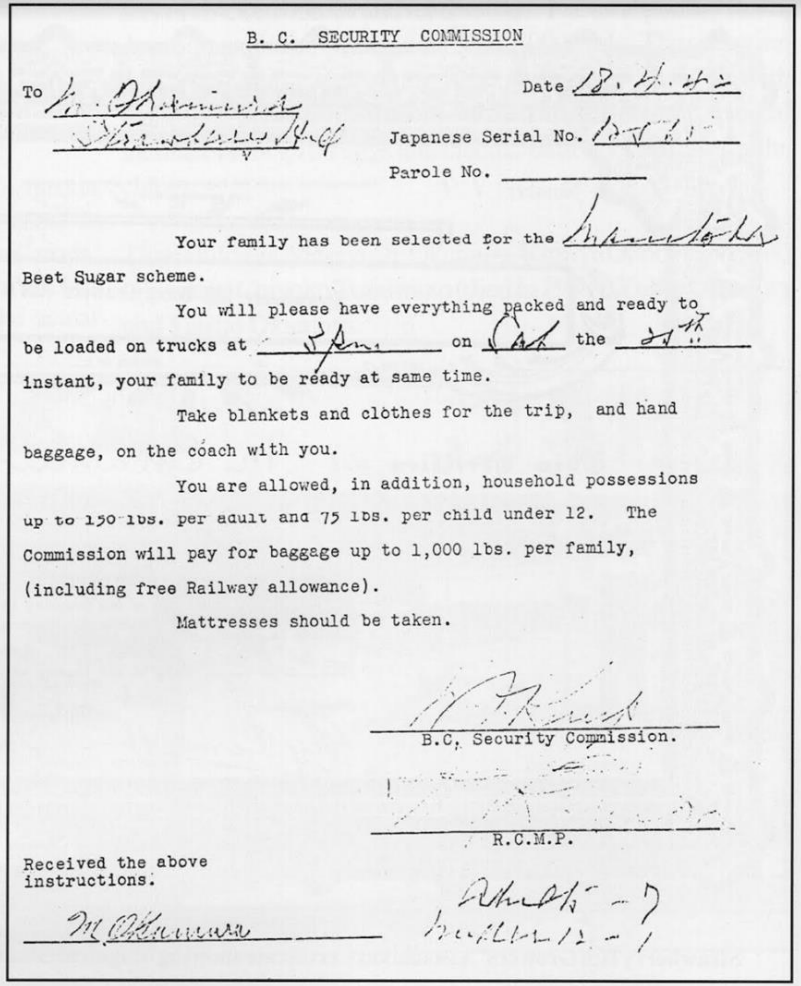
1942年、 移動者との別れ

1940年、移動中の人々



Mr. Okamura's contribution to the war effort in February/March of 1942 resulted in a Certificate of Honour from the government.

In April, however, he was told by the B.C. Security Commission that the family should be ready at 3:00 p.m. on April 25th to leave their home to work in the "Manitoba Sugar Beet Scheme."



B. C. SECURITY COMMISSION

To [illegible]

Date [illegible]

Japanese Serial No. [illegible]

Parole No. _____

Your family has been selected for the [illegible] Beet Sugar scheme.

You will please have everything packed and ready to be loaded on trucks at [illegible] on [illegible] the [illegible] instant, your family to be ready at same time.

Take blankets and clothes for the trip, and hand baggage, on the coach with you.

You are allowed, in addition, household possessions up to 150 lbs. per adult and 75 lbs. per child under 12. The Commission will pay for baggage up to 1,000 lbs. per family, (including free Railway allowance).

Mattresses should be taken.

B.C. Security Commission.

R.C.M.P.

Received the above instructions.

M. Okamura

岡村家の戦時貢献証書とマニトバ州への移転通知書

岡村家最後の写真、玄関先で　**1942**年

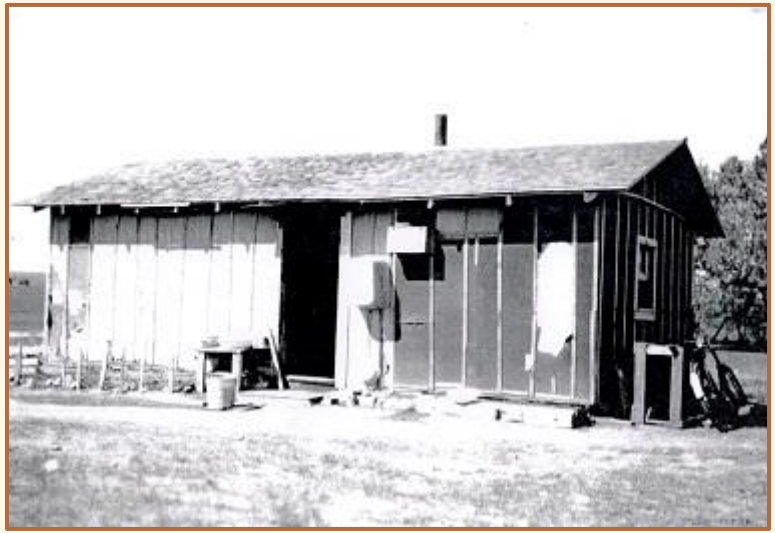
アルバータ州甜菜農家

1941-1945年、たけやす家の甜菜畑

BC州の日系農家は家族が一緒にアルバータ州の農場に配属されるか、分離されて男は労働キャンプに、女と子供はBC州内陸部の収容キャンプに行くかの選択を迫られました。その結果、多くの家族が南アルバータに移動しました。

南アルバータで提供された住宅は夏の甜菜労働者用で、断熱材もなく、みじめな生活環境でした。政府はこのような家を改善するために、ある程度の建築資材を提供するという限定的な支援しかおこないませんでした。そして、人々は畑で得たわずかな賃金を使って住まいを維持・修理するために自分で努力しなければならなかってのです。

1942年、ピクチャービュートに着いた人々



日系家族にあてがわれた粗末な家

12×20フィートの小屋に、年老いた祖父母や幼い子供など、最大11人が暮らしていることも珍しくありませんでした。良質で豊富な水源がないことも問題でした。孤立した地域での甜菜農園では、医療を受けることも難しく、医療費も高額になっていました。

Nikkei Tapestry

Sgt. Mitsui WWII

1942年、三井マスミは敵性外国人として登録されるため、バンクーバーのヘイスティングスパークへ移送されました。そこで職員からの質問に“What can I do for you, Sarge? ”と答えたそうです。 三井は、自分の戦争勲章を取り出し、テーブルの上に投げつけて、“私の勲章に価値はないのですか？”と尋ねたと伝えられています。勲章は返還されたものの、彼は人前で勲章を身につけるのをやめ、やがて農場を接収され、家族とともにBC州グリーンウッドに強制移住させられました。

終戦後も日系カナダ人に対する規制は緩和されませんでした。三井一家はBC州沿岸に戻ることができず、連邦政府は彼らの同意なしに三井一家の農場を売却しました。経済的に苦境に立たされた一家は、オンタリオ州南部に移り住み、最終的にハミルトンに落ち着くことになりました。

1980年代に入り、日系カナダ人戦時補償の動きが活発化する中で、三井の目覚ましい功績が明るみに出てきました。1985年8月、98歳の三井は、1942年に火を消されたスタンレーパークの日系カナダ人戦争記念館の灯籠に再び火を灯す式典に招待され、名誉あるゲストとしてバンクーバーを訪問しました。1987年、三井マスミは100歳の誕生日を数ヶ月前にして亡くなりました。

第一次世界大戦後の三井軍曹

The Canadian Encyclopedia

戦後の時代　(1946-1988)

1945年、マッケンジー・キング首相は日系人に「ロッキー山脈の東側へ移動」という命令を出しました。それは、BC州外に再定住し最低限の政府支援を受けるか、敗戦で荒廃した国日本への「自主的な本国送還」を申し込むかの2つの選択肢を日系人に与えるものでした。日本へ送還になれば経済的な援助を受けることができるといわれました。オタワの方針は公式には日系人の自主的判断を尊重するように装いながら、実は日本人にカナダ市民権放棄と国外退去を迫るものでした。

日系人の大半はロッキー山脈の東に移住することに同意しましたが、それでも法的な制約を受けることになりました。1945年に戦争が終わると、オタワは東部への移住を拒否した人々は「自発的」に送還に「同意」したとみなし、1万人を国外追放する命令を出しました。日系人とその支援者たちはこの強制送還を阻止するために運動を開始しました。この問題はカナダ最高裁判所に持ち込まれましたが、結局、この強制送還は合憲であると判断されました。

1946年、この強制送還計画が報道されると、カナダ全土から大規模な抗議が起こりました。連邦政府は政治的解決のための時間稼ぎとして、この問題の判断を裁判所にまかせ、その間に日系人の東部州への分散を早めましあ。また、4,000人の日系カナダ人の日本への強制送還がはじまりました。このうち2,000人は、すべてを失い、カナダでの再出発に絶望した高齢の一世、1300人は16歳未満の子どもたち、残り700人は、老いた親を見捨てられないで両親と一緒に日本に行った16歳以上の若い二世でした。

世論の反対に押し切られて、キングは最終的にこの政策を取りやめましたが、その時までに既に4,000人が日本に強制送還されていました。これらの人の多くはカナダに帰国するまで何年も待たされました。一方、政府は日系人に対する戦時中のさまざまな制限を維持し、1949年4月1日まで西海岸への帰還を許可しませんでした。　1945年に日系人に選挙権が与えられました。

The Canadian Encyclopedia

戦後の時代　(1946-1988)

“ロッキー山脈の東側へ移動”の政策により、カナダ大平原州や東部地方に日系のコミュニティが形成されはじめました。二世、三世が事業を興し、教育を受け、都市に移住していったのです。1967年、移民法が改正され、ポイント制が導入されると、日本からの移民ブームが起きました。この時期の日本からの移民の多くは、ビジネス、サービス業、技能職で活躍しました。この時期にエドモントン日系人会、カルガリー日系人会、レスブリッジ日系人会などが結成されました。

The Canadian Encyclopedia
Edmonton Japanese Community Association

エドモントン日系人協会

戦後の時代　(1946-1988)

1970年代後半、第二次世界大戦中に連邦政府が日系カナダ人に対して犯した不正義の是正が、全カナダ日系人協会（NAJC)の主要な焦点となりました。連邦政府を説得し、戦時中の不正義を認めさせ、不当な扱いを受けた人々への補償を交渉し、そして最も重要なことは、将来、他のカナダ人が日系人と同様の不正義を受けないようにカナダの法律を改正することを要求しました。1984年、当時のトルドー首相はNAJCの救済要求に応え、戦時中の抑留政策に遺憾の意を表明しましたが、金銭的補償は行われませんでした。その論拠は、他のカナダ人も歴史的な差別を受けてきたというもので、政府が過去の歴史的不正義をすべて正すことに着手することはできないとしていたのです。

1988年、政府とNAJCの交渉の末、ブライアン・マルロニー首相は下院で戦時中の不正義を認め戦時補償を発表しました。

2012年、BC州政府は、日系人の差別、収奪に関与したことを謝罪しました。2013年にははバンクーバー市議会も日系人に謝罪しました。

1988年、ブライアン・マルローニ首相とアート・三木

The Canadian Encyclopedia

Notable Figures

アメリカ人の人権擁護者であった平林博士は、エドモントンに移り、1963年にアルバータ大学の社会学部長に就任しました。エドモントン日本文化協会に積極的に参加し、連邦政府リドレス運動中にコミュニティに情報を提供するため、ニュースレター「Moshi Moshi」を創刊しました。1980年代にはNAJCの評議員として活発に活動しました。博士の歴史的視点と個人の権利に対する強い信念は、NAJCリドレス原則の形成に役立ち、リドレス和解のための基礎を築きました。2003年にはNAJCナショナル・アワードを受賞しました。2012年死去しましたが、その死後、米国のオバマ大統領から大統領自由勲章を授与されました。

National Association of Japanese Canadians

ゴードン・平林博士

アート・三木は、1980年代のリドレス運動時にNAJCの会長を務めていました。三木は、今回の和解について「正義と人権にとって素晴らしい日」、「1940年代の不正を解決するために長い間苦労してきた日系カナダ人にとって歴史的な日」であると述べています。三木はその後、カナダ人種間関係基金のディレクターを務め、2012年にはマニトバ勲章を授与されています。

Wikipedia

アート・三木

日系人の今日

戦後の日系世代は圧倒的に白人が多いコミュニティーで育っています。戦前の日系人コミュニティの名残は、3つの新聞と大都市にあるいくつかの教会、寺院、コミュニティクラブにしか残っていません。三世の多くは、英語かフランス語を話し、日本語はほとんど、あるいは全く話せず、日本文化についても、過去も現在も、限られた知識しか持っていないのが現状です。三世の75%以上は、日系人以外のパートナーと結婚しています。

The Canadian Encyclopedia

2021年のカナダ統計局によると、日系人は129,430人で、カナダ総人口の0.36%です。人口は”新移民”と“二世から五世”が半々ぐらいです。日系人総人口の42.2%がBC州、32.6%がオンタリオ州、14.4%がアルバータ州に居住しています。

日本語の喪失はコミュニティの懸念事項です。二世代では、32%が日本語を母語として維持していますが、第三世代以降ではわずか2%です。日系カナダ人の三世代目以上の96%が英語を母語としています。

日本からの新移者は男性よりも女性の方が圧倒的に多いのが特徴です。1991年以降、女性の移民の割合は約75%を占めています。

Takashi Ohki

JCの今日

アルバータ州では、語学レッスン、武道、音楽などのさまざまな活動やプログラムに参加することで、日本文化を理解することができます。これらのクラブの多くは、戦後に設立されたものです。日系人だけでなく、日本文化に関心のあるカナダ人一般にも楽しまれています。カナダ全国の日系コミュニティーでは、だれでも参加できる夏祭りが人気を集めています。エドモントン、レスブリッジには、大規模な日本庭園があります。

アルバータ州の多くの市や町が、日本の都市との姉妹都市提携プログラムに参加し、学生や文化の交流を楽しんでいます。カナダ全土で、日系人の歴史を保存し、年長者の経験を記録する取り組みが行われています。

アルバータ州では、学校教育におけるJCの歴史の内容を増やし、改善する取り組みが行われています。レスブリッジとカルガリーには仏教寺院があり、レイモンドには歴史的な仏教教会があります。

Links for more Information

1. Nikkei History in Southern Alberta- https://www.nikkei-tapestry.ca/
2. Sgt. Mitsui- https://youtu.be/7iTMiSU_mIM
3. Sugar Beets- https://centre.nikkeiplace.org/2020/10/28/bitter-sweet-trail/
4. More sugar beets- https://www.nikkei-tapestry.ca/chapter/arrival-in-southern-alberta
5. East of the Rockies- https://www.nfb.ca/interactive/east_of_the_rockies/
6. Edmonton Japanese Community Association- https://ejca.org/
7. Calgary Japanese Community Association- https://calgaryjca.com/wp/
8. Nikkei Cultural Society of Lethbridge- https://nikkeiculturalsociety.com/
9. National Association of Japanese Canadians- https://najc.ca/

Picture Sources

Slide 1
Karate Alberta
CJCA Omatsuri 2017
Galt Museum
Nikkei Tapestry

Slide 2
Canadian Encyclopedia

Slide 3
Nikkei Cultural Society

Slide 4
EJCA History Project

Slide 5
Wilfrid Laurier University

Slide 6
Flickr

Slide 8
Nikkei National Museum

Slide 9
North Delta History and Heritage (2020 4th edition), J. MacDonald.

Slide 11
Canadian Encyclopedia
Vancouver Public Library
CBC News

Slide 12&13
North Delta History and Heritage (2020 4th edition), J. MacDonald.

Slide 14
Galt Museum

Slide 15
Canadian Encyclopedia

Slide 17
EJCA

Slide 18
CRRF

Slide 19
LA Times
Library and Archives Canada

Slide 21
Consulate General of Japan in Calgary
Nikka Yuko Garden
Kita no Taiko